

第五十九期天理教学生会活動方針

仲間と手を取り合い、身の回りの有り難い事に気づこう

道の学生として通る中で、私たちには一緒に通っていく仲間が必ずいます。仲間と手を取り合えば、楽しさは何倍にもなります。苦しさは、有り難い節だと気づき、共に乗り越えることができます。仲間がいるから一人ではできないことができたり、新しい発見ができたりします。仲間と手を取り合うことの大切さや、仲間の存在の有り難さを感じましょう。また、私たちの身の回りにはたくさん有り難い事で溢れています。普段意識しない身の回りの有り難さに気づくことで、その心が日々の姿にあらわれ、陽気に過ごすことができます。その姿を見て、親神様・教祖はお喜びくださいます。立派なようぼくへと成人していくため、道につながる仲間と「共に手を取り『ありがとう』に気づく学生会」をつくっていきましょう。

一、低い心で通ろう！

「立教百八十五年 春の学生おちばがえり」の式典で真柱様は、「澄んだ心で素直に教えを実行して、心を陽気に向ける努力を積んでいってほしい」というメッセージを下さいました。日々の生活の中で思うようにいかないこともあります。心の使い方次第で、成長できる大きなチャンスとなります。今期は、その心の使い方として、低い心を推進します。低い心とは、何事にも素直で謙虚な心です。心の低い人には自然とたくさんの仲間が寄ってきます。この心を持って、仲間と支え合い、今まで当たり前だと思っていたことが有り難いことだと気づいていきましょう。みんなが低い心を実践し、親神様・教祖にお喜びいただける姿になりましょう。

○思いやりの心を持つよう

低い心で通るために、仲間に思いやりの心を持って行動していきましょう。思いやりの心で接することは、仲間の助かりになり、それが自分自身の喜びにもなります。人に喜んでもらえることをしたり、悩んでいる人に寄り添ったりと、仲間のことを思いやった行動をしていきましょう。

○逸話篇を読もう

教祖の心遣いを学ぶために「稿本天理教教祖伝逸話篇」を読むことを推進します。教祖の心遣いを通して、低い心の持ち方を学びましょう。そして、その心を実践に移し、仲間と手を取り、たくさん有り難いことに気づいていきましょう。

一、ひのきしんをしよう！

ひのきしんとは、親神様にお借りしている身体やご守護への感謝の心を、態度や行為に表すことです。ひのきしんは感謝の心があれば、時間や場所を問わず、一人でも行うことができます。また、仲間と共に行うことで、一人ではできなかったことができたり、一人では気づかなかった有り難い事にも気づけたりします。仲間に声をかけ、ひのきしんができることに感謝しながら勇んで実践しましょう。

○かしの・かりものの教えを学ぼう

ひのきしんを勇んでさせていただくために、「かしの・かりもの」の教えを学びましょう。人間の身体は親神様からのかりもので、心だけが自分のものだと思われています。この身体を親神様の思召しに沿うように使わせていただくことが肝心であり、「かしの・かりもの」の教えを心に置いてひのきしんをすることが大切です。仲間と共にこの教えを学び、日々のご守護に心から感謝して、ひのきしんをさせていただきましょう。

○身近にできるひのきしんの実践

ひのきしんは日々の実践が大切です。靴を揃えたり、ゴミを拾ったりと、身近にできるひのきしんを探して、勇んで実践していきましょう。また、教会に行くと、神殿掃除や月次祭準備など、できるひのきしんがたくさんあります。私たちがひのきしんをする姿で、周りを勇ませることもできます。勇み心を周りに映し、たくさん仲間に広げていきましょう。